

DHCシアター居直る

MXの沖縄中傷番組制作

東京メトロポリタンテレビジョン(東京MX)の番組「ニュース女子」が、沖縄県東村高江周辺の米軍ヘリコプター着陸帯(ヘリパッド)建設に反対する人たちを中傷した問題。MX側から謝罪の言葉はないが、「ここに来て番組を制作したCSチャンネル「DHCシアター」(東京都港区)が「見解」を公表。

「反対派の言い分を聞く必要なし」と開き直った。

(佐藤大)

問題の番組は一日に放送された。名指しされた市民団体「のりこえねっと」は、カンパで捻出した資金から交通費相当の金銭を支給し、現地の様子を発信する「市民特派員」を派遣したにもかかわらず、番組は「反対派は日当をもらつている」などと主張。「沖縄ヘイトだ」と抗議や批判が相次ぐ。「こちらの特報部」は七日と二十日の二回にわたって番組を徹底批判した。批判の矢面に立っているのはMXテレビだが、実際に番組を制作しているのは、化粧品大手ディーエイチシー(DHC)傘下のDHCシアターで、同社が梓

を買い取る形で放送されている。ホームページ(HP)によると、同社会長はDHCの吉田嘉明会長。かつては「シアター・テレビジョン」という名前だったが、二〇一五年一月からDHCシアターと改名した。

MXテレビの有価証券報

告書によると、主な取引先のトップはDHCで、一年三月期の販売実績は二年三億五千九百万円(14.3%)。両者の密接つながりがうかがえる。

DHCシアターは二十日

にHP上で、浜田麻記子社長と番組チーフプロデューサーの連名で「ニュース女子番組見解について」を掲

「基地反対派の言い分 聞く必要なし」



DHCシアターに入るビル=東京都港区で

辛氏憤り「差別を扇動」

載。これによると、反対派が「日当」万円をもつていた」との内容についてVTRでは「可能性を指摘する」ものとし『二万円の日当』を断定するものではなく、疑問として投げかけている」と強弁。高江周辺で取材しなかったことにについては「数々の犯罪や不法行為を行っている集団を内包し、容認している基地反対派の言い分を聞く必要はない」と言い切った。

DHCシアターは二十四日、特報部の取材に「HP上の見解がすべてで、それ

以上申し上げることはない」と回答した。

のりこえねっと共同代表の辛淑玉氏は「見事に開き直っている。彼らは真摯に耳を傾けるという気は全くない。差別を扇動しておられない。許されないと憤る。

ヘイトスピーチ問題に詳しいジャーナリストの安田浩一氏は「情報の裏取りをせず、ネットに流通している情報をつまみ食いしだけだった、ということがはつきりした。戦場でも何でもない現場に危険だからと言つて行かず、『ニュース女子』

ス」を名乗るとは恥ずべき行為。確信犯的に沖縄の基地反対運動を中傷し、おどしめるために制作したとか思えない」と指弾する。

辛氏らは、放送倫理・番組向上機構(BPO)放送人権委員会に人権侵害を申し立てる方針。これとは別にBPO放送倫理検証委員会もMXテレビに報告を求める予定だ。

昨年三月までBPO委員だった精神科医の香山リカ氏は、DHCシアターの対応を「公共の電波を使うといつテレビの性質を全く理解していない」と断じた上で、「番組は放送倫理違反に当たる。MX側の責任は大きい」と指摘する。

「ネット上なら何をやってもいいといつことではないが、免許事業で公共性のあるテレビはネットとは明らかに違う。外部提供番組であっても、責任は放送局にある。大きな取引先であっても、少なくとも編成とあつても、少なからぬ編成と切り離すべきだ。テレビ局としてそこをはき違えてはならない」